北海道の印刷出版文化情報誌

季刊アイワード
Quarterly WORD
クォータリーアイワード

2021年4月
第9号（通巻355号）

特集

# 鰊場の光景を今に伝える忍路鰊漁撈の行事
# 忍路鰊場の会

シリーズ「北海道の天然記念物」❶ …… 樽前山溶岩円頂丘〔苫小牧市〕

ほっかいどうの本 ……『うめしゅんの世界花探訪』 …… 北海道新聞社
『北海道開拓の素朴な疑問を関先生に聞いてみた』 …… 亜璃西社
『BIRD ISLAND TEURI』 …… TERRA images

特集

# 鰊場の光景を今に伝える 忍路鰊漁撈の行事

## 忍路鰊場の会

東西に長い小樽市の西端に忍路地区があります。日本海に突き出た忍路半島には、入り口の幅が約200㍍、周囲を切り立った崖に囲まれた忍路湾が、波穏やかな天然の港を形成しています。「入り江」というアイヌ語に由来するこの地区はかつて、鰊漁に沸いていました。浜で働く人が増える中で、鰊場の労働歌や行事が生まれました。毎年3～6月に産卵のため押し寄せていた鰊が、1954年を最後に忍路から姿を消すと、前浜の歌も途絶えました。鰊が「幻の魚」になって20年後の74年に「忍路鰊場の会」が発足し、今も漁撈の歌や漁にまつわる行事を伝承しています。4代目の会長を務める相馬義春さんに会の歩みや活動状況を伺いました。（文と写真・片山健一　取材日2021年2月16日）

網おろしでの「船漕ぎ唄」（2018年撮影／写真提供：忍路鰊場の会）

### 歌だけでなく作業や行事も伝承

忍路鰊場の会は、漁撈の際に歌った「船漕ぎ唄」「網おこしの唄」「沖揚げ音頭」「子はたき音頭」という4つの歌を、作業動作とともに演じ、伝承しています。

相馬さんは「歌だけでは鰊場の様子や歌に合わせて何をやっているのかが分かりませんが、作業をしながらだと力を入れるタイミングの掛け声もよく分かります」と、3月の「網おろし」、7月の「海上渡御」、11月の「ローカ洗い」という鰊場に伝わる3つの行事も受け継いでいる会の活動を説明してくれます。

1980年には小樽市無形民俗文化財に指定され、翌81年には国立劇場で行われた文化庁主催の日本民謡まつりに北海道代表として出演を果たしました。82年には海上渡御などを行うために木造の手漕ぎ船「忍路丸」も新造しています。

忍路で鰊場の文化を後世に伝えようという動きがあったのは、今から60年程前の1962年のことです。実家が親方（網元）だった須磨正敏さんと郷土史家の越崎宗一さんの呼び掛けで、鰊場に伝わる漁撈の歌をレコードにしたことが始まりです。

その歌は、厳しい労働の中から生まれた庶民の心の叫びでもあり、聴いた人々の感情を大いに揺さぶりました。アイヌ語地名研究家の山田秀三さんもその歌声に魅了された一人で、たびたび忍路を訪れました。

山田さんは「忍路に生きた形でこの素晴らしい音楽を残していってもらいたい」と訴え、会の発足や運営に尽力しました。

1974年2月、札幌テレビ放送が、忍路鰊場の歌や作業の様子を収録する際に「小樽市漁業組合10区（忍路）」の漁師ら17人が集まったのがきっかけとなり、この年の3月に

忍路鰊場の会が結成されました。

初代会長は須磨正敏さんが就任し、2代目会長は、忍路で親方を務めていた板本孝之進さん、3代目は三浦一郎さん、4代目として現会長の相馬さんに受け継がれ、今年3月で就任8年目を迎えました。

相馬さんは「文化を伝承しようとか大それた思いもなく、蘭島出身だからソーラン節でも歌えたらという軽い気持ちで始めました。でも、入ってみて、最初はとても歌えそうにないと思いました」とその迫力に驚いたそうです。

## 海の男達による迫力の合唱

鰊場の歌は、「建網」と呼ばれる定置網による大人数で行う漁が増えた明治以降に歌われるようになりました。

鰊場の歌は、船頭らによる「はおい」という独唱と、漁夫たちの「下声」という斉唱部分から構成されています。海で鍛えられた男たちによる「はおい」と「下声」の掛け合いが微妙に重なって表れる合唱効果は、独特の雰囲気を醸し出します。

海岸から数百メートルから、遠い所では2キロ以上離れた沖にある鰊の通り道に設けた定置網の建場まで、朝夕の往復時に櫂を漕ぎながら歌う「船漕ぎの唄」は、「オーシコー」という掛け声が主体です。

浜を出発する時はゆっくり始まり、船にスピードが乗ってくると、歌のテンポも上がり、疲れた頃にまたゆっくりと戻ります。掛け声の合間には「忍路の沢の炭炊き姉子　色こそ黒いが忍路で一番」といった歌詞が織り交ぜられています。

「網おこし」は、おこし船が建網を引き上げて中にいる鰊を集め、建網を挟んで反対側に横付けした枠船の袋網（枠網）へと追い込んでいく作業です。時には100トン近い鰊が入った網を、おこし船に乗った20人余りの漁夫の手でたぐり寄せ、1時間ぐらいかけて枠網に入れていきます。

その時に歌う「網おこしの唄」は、最初「ヤーセイ」「エーンヤサ」という単調な掛け声で始まります。網を半分以上引き上げると、鰊が密集し徐々に重くなっていきます。最終的には「一寸ずり」というほど、ほんの少しずつしか上がらなくなります。

おこし船は、船頭の合図で網を引き上げますが、力を出し尽くした漁夫たちが最後の力を振り絞る時に次の歌へ変わります。その歌は、「木遣り音頭」です。

伊勢神宮の造営で大木を引いた時の歌がルーツと言われる「木遣り音頭」は東北地方を経由して、北海道の鰊場で歌われるようになったと考えられています。「木遣りができないと船頭は務まらない」（相馬さん）と言われ、「ホーラアエーエ　この網おこせば　ヤーアエーイ　千両万両の金じゃもの　ヨーイトナー」と鼓舞するのです。

「沖揚げ音頭」（ソーラン節）は、漁撈の歌の中で最もポピュラーな歌です。鰊が詰め込まれた枠網を湾内に引き込んでから、大きなタモ網を使って鰊を陸まで運ぶ汲船に移し替

**相馬　義春さん**

**忍路鰊場の会　会長**

実家は小樽市蘭島で豆腐店を営み、父は国鉄職員。小樽工業高校電気科を卒業後、電電公社（現NTT）に就職し、電話機の取り付けや修理業務に従事。知人に誘われ、42歳の時に忍路鰊場の会に入会し、2013年3月に第4代会長に就任した。

手漕ぎ船「忍路丸」を漕ぐ会員たち
（1983年撮影／写真提供：忍路鰊場の会）

網おろしでの「網おこし」の様子
（2018年撮影／写真提供：忍路鰊場の会）

える作業を「沖揚げ」と言い、6、7人の漁夫が一組となって、作業を行います。

網の直径1メートル以上、柄の長さが数メートルもある大きなタモを操るのは大変で、枠網の隅々まで素早く鰊をすくう技術とともに、「やしゃ鉤」や「あんばい棒」でタモを支えて引き上げるチームプレーが不可欠でした。「ソーラン　ソーラン」「エーンヤサ」などといった掛け声で呼吸と力を合わせました。

ソーラン節は歌う人が歌詞を考えるため、千差万別です。「忍路名所に数々あれど　兜岬に竜ヶ岬」といった地名を入れたもの、「忍路津古丹　ワシリの浜で　恋し花子が手で招く」「白い黒いの　争いするな　雪という字も墨で書く」などさまざまな歌詞が伝えられています。近隣の余市、祝津、高島にもそれぞれの歌詞があります。豊漁になるほど作業は長く厳しくなり、疲労も激しいため、歌詞には猥雑なものも多くありました。

大量の鰊が入った網を引き上げる
（1954年撮影／写真提供：忍路鰊場の会）

鰊が群来ると、沿岸の海藻ばかりでなく、網にもびっしりと卵が産み付けられました。網目が塞がると網が重くなり漁に支障を来すため、浜辺に引き上げて女性を含めた大勢で輪になって網を広げ、棒で叩いて卵を落としました。こうした時に歌われたのが「子はたき音頭」です。

「お前好きだとて　親捨てらりょか　金で買われる　親じゃない」「咲いた桜になぜ駒つなぐ　駒が勇めば　花が散る」といった歌詞を歌うのです。

## 仲間意識を高める儀式

毎年3月に行う「網おろし」は、本格的漁期に入る祝いの儀式です。これは、大漁と海上安全を祈願するもので、漁夫全員が参加する出漁祝いの宴席を設け、士気を高めました。忍路では大きな大福餅なども振る舞われます。

7月初めの「海上渡御」は豊漁と海の安全を祈願するもので、忍路神社例大祭に合わせて行います。神輿を担いで港に向かい、忍路丸に神輿を乗せて、鰊場の会のメンバーが櫂を取り、「オーシコー」の掛け声とともに湾内を一周します。神輿はさらに動力船に移されて桃内、忍路、蘭島の海上を周回します。陸に戻った神輿は昼過ぎから夕方まで忍路の町を渡御します。

「沖揚げ音頭」を披露する会員たち
（1984年撮影／写真提供：忍路鰊場の会）

「ローカ洗い」は、鰊漁のために各地から集まってきた漁夫たちが漁期を終えて別れる時に開く総決算、いわゆる「網子別れ」のことです。当時は5月に開かれていたものを今は11月に行い、宴席が設けられます。ちなみに「ローカ」とは鰊置き場のことです。

## 明治に花開いた鰊場の文化

江戸時代、蝦夷地だった小樽などの漁場経営は、松前藩が定める場所請負人にしか許されていませんでした。小樽の中でも、西川伝右衛門を主人とする西川家が1830年から請け負ったヲショロ場所は好漁場として知られていました。

鰊の漁場は次第に北上し、江差など道南方面で鰊が獲れなくなった18世紀末には、「追い鰊」と呼ばれる出稼ぎ漁夫が後志地方で増えていきました。北海道を代表する民謡「江差追分」に、「忍路高島およびもないが　せめて歌棄磯谷まで」と歌われる背景にもなっています。

鰊は北海道と本州との交易品の中で最大のものでした。特に、鰊を煮て圧搾した後に乾燥させた〆粕は、良質な魚肥として重用されました。菜種や綿花、藍などの商品作物の栽培には多量の肥料が必要だったためです。

明治になると、建網の開発により、

実際の沖揚げの様子
（1927年撮影／写真提供：忍路鰊場の会）

漁獲高が飛躍的に向上します。小樽を含む後志地区の鰊漁の最盛期は19世紀末から20世紀初頭にかけてだと言われています。統計によると1897年には道内で年間約100万トンの水揚げがあり、このうち約3割を後志産が占めていました。1905年では、鰊の売上高は811万円余りで、これに対し石炭は約700万円と、まさに鰊漁は一大産業でした。

鰊を水揚げ、加工し、出荷するまでには多くの人手が必要です。複数の建網を持つ網元は、100人を超える従業員を雇いました。明治以降、その主力は東北地方の農村からの出稼ぎ漁夫が担い、彼らによって故郷に伝わる労働の歌や習慣が、鰊場に持ち込まれたのです。

鰊場に莫大な富をもたらした〆粕づくり
（1918年撮影／写真提供：忍路鰊場の会）

## 会員減少に行政も活動を支援

忍路鰊場の会が小樽市指定無形民俗文化財に登録されたころは30人余りで活動していましたが、今や現役で活動している会員は11人です。近年は80～90代の会員の引退、休会が相次いでいるそうです。

地域活性化の願いを込め発足した忍路鰊場の会ですが、過疎化が進む中、漁師の会員はわずかとなり、今の会員は会社員や、農業に携わる人たちがほとんどです。相馬さんも、漁業とは縁のない家庭に育ったため「今も昔の人のような浜言葉では歌えません」と言います。

2020年1月19日に小樽市民会館で収録され、2月に全国放送されたNHKの「民謡魂」に出演が決まった時は、5人で歌ってほしいと言われましたが、「なかなか集まらず、タイミングも合わず、声も小さくて、NHKの担当者も不安だったと思います」と相馬会長は苦笑します。

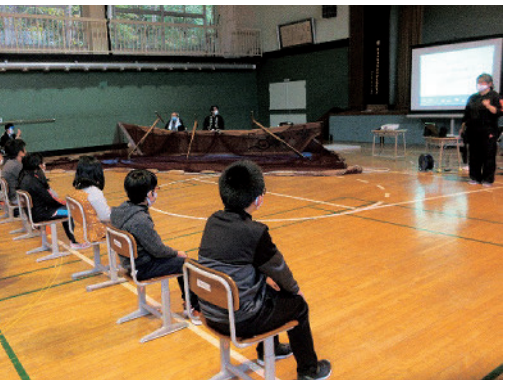
今年の忍路漁港の早春

三浦前会長の後任を決める時、「会がなくなれば、今まで練習したものが残らず、もったいない」と、自ら手を挙げた相馬さんですが、「地元にやる人がいなくなれば、続けられない」と打ち明けます。

文化財指定以降、小樽市も補助金を出すなど活動を継続的に支援していますが、会員の減少という長年抱える懸案の解決には至っていません。活動をPRする上で貴重な機会となる網おろしなどの定例行事も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神社での祈願だけになるなど、いつもの賑やかさはありません。

小樽市教育委員会生涯学習課で文化財を担当する学芸員の山本侑奈さんは「忍路や蘭島の小学生が、鰊がどんな魚か知らないと聞いた時はショックでした」と振り返ります。

子どもたちへの啓発活動が必要と実感した市教委は出前授業を始めました。2020年10月23日、忍路中央小学校で初めて開いた出前授業で、相馬さんらが鰊漁の話をしました。言葉だけでは分かりにくいので、網おこし、櫂漕ぎなどの作業を実演し、沖揚げで使っていた大きなタモなどを持ち込んで紹介しました。


忍路中央小学校での出前授業
（写真提供：小樽市教育委員会）

また、同課主事の山戸大知さんは、数年前に鰊場の会に入会しました。「小樽出身ではありませんが、やってみると楽しいですよ」と笑顔で話します。昔からのメンバーだけでは停滞気味だった練習会も、新会員が入ることで集まる機会が増えてきました。山戸さんは「保存会では可能な限り、先代から受け継いできた形態を残し、後世に伝えるように努めていますが、後継者の世代交代とともに変わっています」と言い、小樽に残る貴重な文化を伝承するこれからの在り方を会員と共に模索しています。

小樽市教育委員会学芸員の山戸さん（右）と山本さん（左）

**お問い合わせ先** 小樽市教育委員会生涯学習課
小樽市花園5丁目10番1号
（5月6日以降は小樽市緑3丁目4番1号に移転）
☎0134-32-4111

樽前山７合目展望台から支笏湖を望む
（提供：苫小牧市）

北海道の天然記念物①

# たるまえざんようがんえんちょうきゅう 樽前山溶岩円頂丘

〔苫小牧市〕

（文と写真・片山健一　取材日2021年3月22日）

## 20世紀に生成された溶岩ドーム 支笏湖や太平洋を望む景観も魅力 今も噴火に備え対策が着々と

樽前山は、支笏洞爺国立公園内にある標高１０４１メートルの活火山です。山頂では、北海道の天然記念物に指定されている黒っぽい溶岩円頂丘（溶岩ドーム）が噴気を上げています。

７合目までは自動車道があり、そこから山頂まで40分ほどで登ることができる上、眼下には、広大な森林と青い支笏湖、さらに苫小牧の街並み、太平洋が広がります。新千歳空港から近く、気軽に美しいパノラマが楽しめることから、家族連れの旅行者にも人気の山です。その反面、いつ噴火するか分からない注意を要する山でもあります。

### １９０９年にできた溶岩ドームなど特殊な地形を形成

樽前山は、約９０００年前の大きな噴火とともに誕生しました。この後、約２５００年前の噴火、１６６７年と１７３９年の大きな噴火があったことが分かっています。

１６６７年の噴火は、噴煙が１万メートル以上立ち上る大規模なもので、火砕流が山腹の森林を焼き払い、西風に乗って軽石や火山灰が苫小牧市の北部に２メートルほど堆積しました。

それから約70年後の１７３９年、再び大規模な噴火が起こり、火砕流が発生したほか、南西の風が吹いたため降下軽石や火山灰が千歳方面に１メートルほど堆積しました。

１７３９年の大噴火の際にできた火口の縁が、山頂にある直径約１・２～１・５キロの外輪山です。

内側はその後の噴火で形成された中央火口丘で埋もれ、さらに中心部には１９０９年の噴火で溶岩ドームができました。このように、外輪山、中央火口丘、溶岩ドームの３形態が同心円状に見られることは珍しく、学術的価値が高いため、１９６７年３月17日に北海道が天然記念物に指定しました。

溶岩ドームは、火口丘に粘性の強いマグマが流出し、盛り上がったもので、樽前山では２回生成されています。最初は１８６７年の中噴火で造られ、１８７４年の中噴火で崩壊しました。２つ目の溶岩ドームは、現在の山頂部にあるもので、１９０９年の中噴火で４月17日から19日の２日間、雲に覆われている間にでき上がったとされています。当時は、高さ１３４メートル、長径４５０メートルのドーム状でしたが、その後、風雨などの影響で一部崩壊して頂部が平坦になり、皿に載せたプリンのような形になりました。

樽前山山頂の溶岩円頂丘（手前）（提供：苫小牧市）

夏には苔むして崖が一面緑に覆われる樽前ガロー

また、樽前山の南麓には「樽前ガロー」というガリ地形の渓谷があります。１６６７年の樽前山噴火で起きた火砕流による火山灰が弱く溶結し、そこを流れる樽前川の浸食作用によってできました。ガローとは、切り立った崖という意味です。

ほぼ垂直の斜面は、コケで覆い尽くされており、幻想的な光景を織りなします。コケの種類はエビゴケ、オオホウキゴケなど60種類以上に上ります。同様に樽前山の噴火が元となって千歳市側に形成されたのが「苔の洞門」です。

### 噴火に備えた対策も着々と

樽前山周辺には、人口17万人を抱える苫小牧市をはじめ、生活や産業を支える重要な交通インフラが集中しています。１７３９年のような大噴火が起きれば、火砕流や泥流が高速道路や鉄道などを直撃する恐れがあり、降灰区域には新千歳空港や苫小牧港も含まれ、物流の停滞などの影響は全国に波及することから、被害は道内の火山の中でも最大になると予想されています。

噴火に伴う泥流対策として、北海道開発局は１９９４年から、砂防ダムや遊砂地の建設を進めています。２００５年に完成した錦多峰川２号遊砂地では直径40メートル、高さ12・5メートルの「セル」と呼ばれる円柱状の構造物が連なっています。

錦多峰川に設けられた円柱状の砂防堰堤

**苫小牧市**

太平洋に面する国際拠点港湾の苫小牧港は、道内最大の貿易額を誇ります。砂浜と原野に築いた世界初の大規模な「掘込港湾」としても知られています。

# ほっかいどうの本

北海道の出版社から発行された本を紹介しております。お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。特記以外は税込価格です。

## うめしゅんの世界花探訪

978-4-86721-007-9

梅沢　俊　著
北海道新聞社　発行
B5判　160頁　2420円
011・210・5744

子どもの頃はチョウを追い求めて野山を駆けまわり、学生時代は山スキー部に所属し道内の山を歩きまわっていた梅沢俊さん。本書は「山を歩きながら暮らす道」を求め続けている著者が近年撮影した花の写真集です。

本書は「海外」、「国内」の2章立てとなり、「海外」では中国・欧州・オセアニアとヒマラヤに生息する野生植物や高山植物の色とりどりの花の写真が収められています。中でも幻の「青いケシ」は困難な道のりの末に見ることのできる花だそうです。「国内」では春・夏・秋の季節順に野生植物や高山植物の写真が北海道を中心に本州の写真も掲載されています。

それぞれの写真にはエピソードが添えられていて、撮影時の情景も知ることができます。私たちが普段行くことのできない場所に咲いている花の写真からは、著者の花に対する思いがとても伝わってきます。

（スキャナ部　外山　進）

## 北海道開拓の素朴な疑問を関先生に聞いてみた

978-4-906740-46-8

関　秀志　著
亜璃西社　発行
A5判　216頁　1870円
011・221・5396

北海道で生まれ、あるいは生活をしてきた人なら「開拓者精神」という言葉を一度は耳にしたのではないでしょうか。しかし「北海道開拓」の実態はというと今の私たちには中々ピンとこないものです。

本書は長年にわたり北海道の地域史、開拓史等の研究に取り組んでこられた関先生と2名の生徒による対話形式です。開拓のはじまりから、実態や経過に至るまで、生徒たちの「素朴な疑問」に関先生が優しく事細かに解説するスタイルで進んでいきます。専門的な内容ですが、フランクな対話の中に時折こぼれ話や脱線もあり、学生に戻ったような感覚で読みやすい構成です。写真資料も多く、また著者の経験談も交えながら展開されるため、当時の情景が視覚的にも浮かび、いっそう北海道開拓への理解を深めることができます。

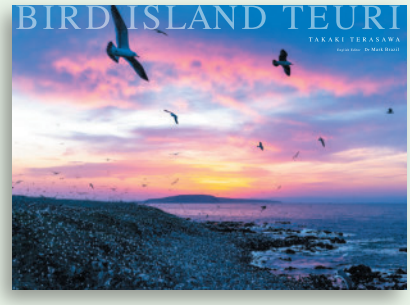
簡単ではなかった、だがそこには夢もあった――北海道の礎となった「開拓」の世界に是非、思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

（Mac部　中村静花）

## BIRD ISLAND TEURI

978-4-8021-3223-7

寺沢　孝毅　著
TERRA images　発行
A4判変型　84頁　2970円
090・1306・1390




私が生まれ育った羽幌町から定期船が通う天売島は、日本海の北部に浮かぶ周囲12キロの小さな島です。海鳥の楽園と呼ばれている島では300人近くが主に漁業で生計を立て、人口を大きく上回る約100万羽の海鳥が春から夏にかけて繁殖のため飛来します。人が住むのは東側の穏やかな海岸線、海鳥が繁殖するのは西側の険しい断崖。こうした明確な棲み分けが、小さな島で人と海鳥との共生を可能にしています。

本書に収められた写真からは、天売島の美しさと豊かな海、海鳥たちの求愛から新しい命を育て上げて種を守ろうとする生き様が伝わってきます。特に海鳥が夕景のなか空一面に帰巣する写真は迫力があり、写真一枚一枚にドラマがあります。

海鳥の減少や絶滅へと近づくのを防ぐため著者の苦悩もあります。この楽園が途切れることのないようにとの願いが込められた写真集に、多くの方が共感することができると強く感じます。

（枚葉印刷部　森田一男）

# 新刊情報

書名の下の数字は日本図書コード（ISBN）及び雑誌コード。特記以外は税込価格。
お近くの書店にない場合は発行先へお問い合わせください。

**北海道コンサドーレ札幌 公式グラフ2020**
978-4-86721-009-3
北海道新聞社　編・コンサドーレ　監修
A4判　112頁　1430円

**北の文学2020 北海道新聞文学賞、短歌賞、俳句賞**
978-4-86721-011-6
北海道新聞社　編
A5判　120頁　1430円

**日高線の記憶**
978-4-86721-013-0
番匠　克久　著
B5判　96頁　1320円

**北海道コンサドーレ札幌 オフィシャルガイドブック2021**
978-4-86721-012-3
北海道新聞社　編・コンサドーレ　監修
A4判　112頁　1430円

**ファイターズ手帳2021**
978-4-86721-014-7
北海道新聞社　編
B6判　164頁　1320円

**達人が教える介護のコツ**
978-4-86721-017-8
北海道新聞社　編・武田　純子　監修
B5判　80頁　1320円

**北海道日本ハムファイターズ オフィシャルガイドブック2021**
978-4-86721-016-1
北海道日本ハムファイターズ　発行
A4判　120頁　1100円

**タマゴマンは中学生　愛蔵版**
978-4-86721-015-4
坂本　勤　著
A5変型判　528頁　2750円

**坂本勤絵ことば集　おっとどっこい**
978-4-86721-019-2
坂本　勤　著
A5変型判　144頁　1650円

**北海道発　Onlyoneの家づくり**
Vol.16　新築&リフォーム
978-4-86721-018-5
北海道新聞社営業局　編
A4判　250頁　1430円

**道新プラス　北海道の病院2021**
16747-03
北海道新聞社　編
B5判　306頁　880円

**北海道新聞社**
060-8711 札幌市中央区大通西3-6
☎011・210・5744

**転向者・小川未明**
「日本児童文学の父」の影
978-4-8329-6864-6
増井　真琴　著
A5判　494頁　8800円

**社会的排除と法システム**
978-4-8329-6865-3
橋場　典子　著
A5判　288頁　5500円

**東アジアのなかの日本文化**
978-4-8329-3410-8
村井　章介　著
A5判　356頁　4180円

北海道大学大学院文学研究院研究叢書31
**古代キリスト教研究論集**
978-4-8329-6866-0
戸田　聡　著
A5判　312頁　7700円

**北大キャンパスガイド**
978-4-8329-1410-0
北海道大学CoSTEP・北海道大学総務企画部広報課・北海道大学生活協同組合　編
四六判　136頁　1980円

**北海道大学出版会**
060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
☎011・747・2308

**北海道みなとまちの歴史**
978-4-906740-44-4
廣井勇が育んだ北の日本近代築港
関口　信一郎　著
A5判　478頁　3960円

**21-22 北海道キャンプ場ガイド**
978-4-906740-47-5
亜璃西社　編著
四六判　352頁　1430円

**亜璃西社**
060-8637 札幌市中央区南2条西5丁目
☎011・221・5396

**ねぐせきょうだい**
978-4-89115-392-2
加賀城　匡貴　絵・文
A4変型判　32頁　1100円

**いなかのほんね**
978-4-89115-393-9
北海道教育大学の学生26名＋
来嶋　路子　編
A6判　215頁　1100円

**中西出版**
007-0823 札幌市東区東雁来3条1丁目1-34
☎011・785・0737

**被曝インフォデミック**
978-4-909281-32-6
トリチウム、内部被曝
――ICRPによるエセ科学の拡散
西尾　正道　著
A5判　132頁　1210円

**寿郎社**
060-0807 札幌市北区北7条西2丁目
☎011・708・8565

**ユイとアキラ**
978-4-434-28441-0
佐々木　静子　著
四六判　320頁　1760円

**柏艪舎**
060-0002 札幌市中央区北2条西3丁目
☎011・219・1211

**猫（ポク）はここにいるよ**
978-4-87739-346-5
新倉　ヨシコ　著
194ミリ×170ミリ　60頁　990円

**英語教育の諸相**
978-4-87739-348-9
服部　孝彦　著
四六判　194頁　1760円

**爪句@今日の一枚――2020**
978-4-87739-349-6
北海道豆本シリーズ46
青木　曲直　著
100ミリ×74ミリ　232頁　500円

**人間の絆を求めて**
978-4-87739-350-2
～ガブリエル・マンセルと私～
小林　敬　著
A5判　352頁　2530円

**旅人類　Vol.07**
978-4-87739-351-9
吉田　類　編
B5判　144頁　1100円

**共同文化社**
060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目
☎011・251・8078

## 表紙のことば

**地獄谷 Ⅱ**
佐藤　一
木版画　40センチ×59センチ

登別温泉の泉源の一つで、大昔の爆裂火口跡である。最初に来たのは小学校の修学旅行であったが、あの時の強烈なにおいと蒸気の吹き出す迫力は忘れられない。
現在は、噴出が穏やかになり、チョット一休みしているかのように見える。
全道美術協会（全道展）会友　札幌市在住

※季刊アイワードのバックナンバーを
弊社ホームページよりご覧いただけます。
URL https://iword.co.jp

Quarterly IWORD
北海道の印刷出版文化情報誌［季刊アイワード］第9号（通巻355号）　2021年4月15日発行　編集■季刊アイワード編集委員会　発行■株式会社アイワード　〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5番地91　☎011・241・9341